



スイス便り

在スイス日本国大使館 一等書記官 ^{あおき}青木 ^{ゆうじ}勇司

1. はじめに

私は現在、スイスの首都ベルンにある日本大使館に勤務しています。スイスの首都はジュネーブと勘違いされる方が多いかもしれません。ジュネーブは国際機関の本部が数多く設置され、報道でその地名を耳にする機会も多いからでしょう。また、経済・金融の中心でFIFA（国際サッカー連盟）本部があり、日本企業の駐在員も多く住むチューリッヒ、IOC（国際オリンピック委員会）本部があり、大きなバレエコンクールが開催されるローザンヌなどの都市と比べ、首都ベルンの名前が日本の報道に登場することはほとんどありません。そこで今回は、小さな首都ベルンや最近の日本とスイスの友好関係について御紹介したいと思います。

2. 世界遺産の都市・ベルン

ベルン（Bern）はスイスのほぼ中心に位置し、スイス連邦の首都、ベルン州の州都でもあります。人口は13.75万人（2013年7月現在）で、チューリッヒ、バーゼル、ジュネーブに次ぐスイス第4の都市です。スイス連邦議会議事堂の所在地であるほか、万国郵便連合（UPU）などの国際機関も置かれています。ライン川の支流であるアーレ川に三方を囲まれたベルンは天然の要塞で、12世紀末にツェーリング家によって創設され、中世の美しい町並みをそのまま残す旧市街は、1983年にユネスコ世界遺産にも登録されました。私の自宅から大使館に行くには、世界遺産の旧市街を通り抜ける



写真2. 町のシンボルである時計塔

ければいけません。毎朝、通勤でアーレ川にかかる橋を通るときに目にする、エメラルドグリーンに輝くアーレ川と丘の上の褐色の屋根の町並みは、絵葉書のようにきれいです。よく晴れた日は、遠くにメンヒ、ユングフラウ、アイガーなどスイスを代表するベルナーオーバーラントの白い山々が見えます。町並みの他にもシンボルである時計塔や大聖堂、町の名前の由来ともなった熊がいる熊公園やバラ公園、数多くの噴水などたくさん見所があります。



写真1. 世界遺産・ベルン旧市街

3. アインシュタインとパウル・クレー

皆さん、アルベルト・アインシュタインがスイスに住んでいた時期があったことを御存じでしょうか？ 1903年から1905年までアインシュタインはベルンの特許庁に勤めながら、自らの研究を進めていました。「光量子説に基づく光電効果の理論」、「ブラウン運動の理論」、「特殊相対性理論」という偉大な発見を1905年の1年間に三つも発表したことから「奇跡の年」と呼ばれています。ベルン歴史博物館には、アインシュタイン博物館が併設され、彼の生涯を時代別に詳しく紹介しています。また、旧市街には彼が家族と過ごしたアパート



写真3. パウル・クレーセンター外観

があり、記念館として一般公開されています。世紀の大発見「特殊相対性理論」を書き上げた部屋は、意外にも小さな空間でしたが、長男も誕生し、妻と堅実に暮らしていた彼の生活をかいま見ることができます。「特殊相対性理論」は彼がバスの乗車中に、時計塔の針が不動に見えることにヒントを得たと言われています。その時計塔は、中世の時代から現在でも時を刻み続け、地元のシンボルとして愛されています。また、地元ベルン大学の物理学は伝統があり、NASAと欧州宇宙機関の機器の開発やプロジェクトにも貢献しているそうです。

20世紀のスイス芸術史を代表する画家パウル・クレー (Paul Klee 1879-1940) もベルン出身です。彼が生涯で残した作品約10,000点のうち、約4,000点という膨大な数を収蔵している美術館があります。レンゾ・ピアノが設計し、屋根の曲線が美しいモダンな建物で、コンサートホールもあり、ベルンのランドマークのひとつです。

4. 日本とスイスの友好

(1) ユングフラウ山頂郵便局・富士山五合目簡易郵便局の姉妹締結20周年

今年はユングフラウヨッホ山頂郵便局と富士山五合目簡易郵便局の姉妹締結20周年に当たります。これを記念し、7月16日にユングフラウヨッホ山頂で、式典が催されました。記念式典には、スイス郵便 (Post CH AG)、日本郵便株式会社、在スイス日本国大使館及び万国郵便連合 (UPU) 等関係者が出席しました。大使館に保存されている当時の資料によれば、富士山五合目簡易郵便局は1992年の開局時から、世界の特徴ある郵便局との友好関係を目指しており、ヨーロ



写真4. ユングフラウヨッホ展望台に掲示されている20周年を祝うプレート

ッパで最も高い場所にあるユングフラウヨッホ山頂郵便局に提携を申し入れたことが姉妹関係を結ぶきっかけでした。

友好のあかしに、日本からは昔懐かしい円筒状の赤い郵便ポストが1993年にスイスに贈られ、標高3,454メートルのユングフラウヨッホ駅の隣にあるホールに設置され、今も実際に使用されております。一方、スイスからはスイスの四角く黄色い郵便ポストが贈られ、標高2,305メートルと日本で一番高い場所にある富士山五合目簡易郵便局に展示されています。毎年、多くの日本人観光客が訪れるスイス屈指の観光名所であるユングフラウヨッホ。日本への手紙の投函やポストの前で記念写真を撮る日本人客も多く、大変親しまれています。提携後、両郵便局の活発な交流はほとんどなく、10周年記念も特に祝われていませんでした。そこで在スイス日本大使館が20周年記念式典を両者に提案し、双方から賛同を得ました。来年は日本とスイスの国交樹立150周年でもあり、ユングフラウとアイガー、メンヒの3名峰とヨーロッパ最大で最長のアレッチ氷河を抱くユングフラウ-アレッチ-ピエッチホルン地方は2001年に、富士山は今年ユネスコ世界遺産に登録され、共通点も更に増え、タイミングのよい式典開催となりました。また、スイス郵便は今年6月に民営化され、2007年に民営化された日本郵便と今後も更なる協力関係の構築が期待されます。

(2) 「アルプスの少女ハイジ」とユングフラウ鉄道

私が子供だった頃、「アルプスの少女ハイジ」のアニメが大流行し、私もアニメーションに登場するスイスアルプスの雄大な自然に憧れました。昨年は、その「アルプスの少女ハイジ」の舞台となったユングフラウ地方のアルプスを代表する登山鉄道である「ユングフラウ鉄道」が全線開通100周年を



写真5. 野外演劇模様

迎え、様々なイベントが行われました。昨年、初めてその鉄道に乗ったとき、車内で上映された観光案内ビデオが「アルプスの少女ハイジ」のアニメで、あのハイジの声で日本語のアナウンスも流れ、びっくりしました。たくさんの日本人観光客からは歓声が挙がり、私の向かいに座っていた外国人家族も「Is this Japanese animation?」とにっこりしながら話しかけてきました。町の本屋さんに行くとドイツ語版「アルプスの少女ハイジ」の絵本やDVDをよく見かけます。スイスの作家シュペーリが約130年前に書いた物語を原作に、宮崎駿氏などの現在のアニメ界の巨匠たちが、放映が始まる1年前の1973年、「本物のスイスを肌で感じ、スイス人が見てもおかしいと思われないように、忠実に地域の人々の日常生活や自然を描きたい」という強い思いで、スイスロケを敢行したそうです。現在では世界に通じるアニメとなり、日本人だけでなく、スイス人にも愛されています。

(3) シュヴィーツの日本劇

今年2月1日、人口1万4,000人の小さな村シュヴィーツで、5年に1度、日本をイメージした劇が上演されるということで、観に行きました。冬のカーニバル（謝肉祭）の時期に合わせて行われるこの野外演劇「ヤパネーゼンシュピール (Japanesenspiel)」は、村人約200人が出演し、脚本から舞

台装置、俳優まで村人によって行われます。この日本劇が始まったのは1863年。スイスの分離同盟戦争で敗れ、戦争の賠償金の支払いに疲弊した村人たちを勇気づけようと、地元の名士が始めたそうです。なぜ、日本人観光客もほとんど訪れないこの小さな村で、日本劇が156年も前から上演されているのでしょうか？当初は別の内容だったそうですが、スイスの使節団が修好通商条約を結びに日本に渡航したことを知った村人たちが200年以上鎖国を続けてきた遠い異国である「日本」に興味を抱いたことが上演のきっかけだそうです。そして、日瑞修好通商条約が締結される1年前の1863年、「日本の中のスイス (Die Schweiz in Japan)」が公演されました。想像上の日本という舞台でスイスの世情を風刺したこの劇は反響を呼び、定着するようになったそうです。

スイスドイツ語で方言も強いので、セリフの意味は分かりませんでした。天皇をイメージした王と日本の歌舞伎のようなメイクをした「カブキ」と呼ばれる護衛たちが現代のスイスの社会問題を解決していくという話でした。本来なら2012年開催予定でしたが、東日本大震災を考慮して1年ずらしたそうです。

5. おわりに

2014年、スイスと日本は、国交樹立150周年を祝う記念の年を迎えます。1864年に両国間で最初の修好通商条約が結ばれたことをきっかけに、両国は長い友好関係を築いてきました。150周年の特別な年には、両国の高度で緊密な関係を強調する多くのイベントが提供されます。是非、皆さんその記念すべき年にスイスにお越しください。

